

[3] 母校だより

(1) 京都大学地球系教室及び関係教室の近況

(a) 社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻・土木工学コースの近況報告

都市社会工学専攻専攻長、土木工学コース長 岸田 潔

ただいまご紹介いただきました令和元年度都市社会工学専攻の専攻長を仰せつかっております平成2年学部卒、平成4年修士課程修了の岸田潔です。併せて地球工学科土木工学コースのコース長を担当しております。なお、社会基盤工学専攻の専攻長は、杉浦邦征教授が担当されています。



それでは、土木系教室の近況報告をさせていただきます。

まず、表1に示します通り、教員の在籍状況をご報告申し上げます。土木系の研究室は、工学研究科社会基盤工学専攻に20研究室、都市社会工学専攻に17研究室、地球環境学堂に1研究室、情報学研究科に3研究室、学術情報メディアセンターに1研究室、計42研究室、95名で構成されています。特定・特任教員やJSPS特別研究員を含めると、非常に大きな組織となっており、卒業生のご支援によって成り立っているものと考えております。

この1年間の人事異動を表2に示します。退職されました教員としては、松村正秀准教授が熊本大学教授へ異動されています。また、小林潔司教授が、平成31年3月末日で停年退職を迎えられました。先生の永年の研鑽に敬意を表しますとともに、土木系教室が先生から薫陶を受けました事に対し、衷心より御礼を申し上げます。新規採用といたしましては、北根安雄准教授が名古屋大学から、五井良直助教、木戸隆之祐助教、中尾聡史助教、宮崎祐輔助教、山野井一輝助教がそれぞれ着任されています。また、森信人教授、大庭哲治准教授、澤村康生准教授が昇任されています。

続きまして、土木系学生の本年4月状況を表3に示します。内閣・各府省、独立行政法人・団体、学校、地方庁、道路、電気・ガス・水道は、ほぼ昨年並みです。地方庁への就職者が、ここ数年の傾向として低いのですが、本年も同様の状況でした。深刻な状況と私個人は感じております。また、鉄道・空港は、昨年の19名から13名と6名ほど減らしたのに対し、建設への就職者は、昨年の12名から大きく数字を伸ばし、

表1 土木系講座・分野の教員の在籍状況（令和元年5月31日現在）

社会基盤工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授, 講師	助教
応用力学			西藤 潤, KHYYER, Abbas	田中 智大 ⁺
構造工学	構造材料学		山本 貴士	高谷 哲
	構造力学	杉浦 邦征 ⁺	北根 安雄	五井 良直
	橋梁工学	八木 知己		野口 恭平
	構造ダイナミクス	高橋 良和	安 琳	
	国際環境基盤マネジメント		金 善玟, 張 凱淳	
水工学	水理環境ダイナミクス	戸田 圭一 [*]	山上 路生	岡本 隆明
	水文・水資源学	立川 康人	市川 温, 萬 和明 ^{**}	
地盤工学	地盤力学	木村 亮	木元小百合 [*]	木戸隆之祐
	社会基盤創造工学	金 哲佑		
空間情報学		宇野 伸宏	須崎 純一	木村 優介
都市基盤設計学	景観設計学	川崎 雅史	山口 敬太	
	沿岸都市設計学	後藤 仁志	原田 英治 ⁺	五十里洋行
防災工学 (防災研究所)	砂防工学	藤田 正治	竹林 洋史	宮田 秀介
	防災水工学	中川 一	川池 健司	山野井一輝
	地盤防災工学	渦岡 良介		上田 恭平
	水文気象工学	中北 英一	山口 弘誠	
	海岸防災工学	森 信人		
	防災技術政策		佐山 敬洋, LAHOURNAT, Florence	
	水際地盤学	平石 哲也	馬場 康之 ⁺⁺	

*：経営管理大学院併任，⁺：地球環境学堂併任，**：工学基盤教育研究センター，⁺⁺：白浜海象観測所

都市社会工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授, 講師	助教
構造物マネジメント工学		河野 広隆	服部 篤史	
地震ライフライン工学		清野 純史	古川 愛子	
河川流域マネジメント工学		細田 尚	音田慎一郎	
ジオマネジメント工学	土木施工システム工学	大津 宏康	PIPATPONGSA, Thirapong	北岡 貴文
	ジオフロントシステム工学	三村 衛	肥後 陽介	澤田 菜伊
	国際都市開発		FLORES, Giancarlo, QURESHI, Ali GUI	
都市社会計画学	計画マネジメント論		松島 格也	瀬木 俊輔
	都市地域計画		松中 亮治, 大庭 哲治*	
都市基盤システム工学		岸田 潔	澤村 康生	宮崎 祐輔
交通マネジメント工学	交通情報工学	山田 忠史*	SCHMOECKER, Jan Dirk	中尾 聡史
	交通行動システム	藤井 聡		川端祐一郎
都市国土管理工学 (防災研究所)	耐震基礎	澤田 純男	後藤 浩之	
	地域水環境システム	田中 茂信	田中 賢治	
	水文循環工学	堀 智晴		
	災害リスクマネジメント	CRUZ, Ana Maria	横松 宗太	
	自然・社会環境防災計画学	角 哲也	竹門 康弘, KANTOUSH, Sameh Ahmed	野原 大督
	都市耐水	五十嵐 晃	米山 望	

*: 経営管理大学院併任

学術情報メディアセンター

講座名	分野名	教授	准教授	助教
計算工学 (学術情報メディアセンター)		牛嶋 省		鳥生 大祐

地球環境学

講座名	分野名	教授	准教授	助教
社会基盤親和技術論		勝見 武	高井 敦史	

情報学研究科 社会情報学専攻

講座名	分野名	教授	准教授	助教
地域・防災情報システム学 (防災研究所)	防災社会システム	多々納裕一	SAMADDAR, Subhajyoti	
	巨大災害過程	矢守 克也	大西 正光	
	災害情報システム	畑山 満則		

表2 土木系教員人事異動 (H30年6月～R元年5月)

●退職				
社会基盤工学専攻				
H31.3.31	松村 政秀 准教授	(構造工学講座構造力学分野) ⇒熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授へ		
	伊豫部 勉 特定准教授	(災害リスクマネジメント工学 (JR西日本寄附講座)) ⇒東日本旅客鉄道株式会社へ		
	西田 孝弘 特定准教授	(インフラ先端技術産学共同講座) ⇒国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所へ		
	HANITTIANA, Patinya 特定研究員	(水工学講座水文・水資源学分野) ⇒チュラロンコン大学へ		
都市社会工学専攻				
H31.3.31	小林 潔司 教授	(都市社会計画学講座計画マネジメント論分野) ⇒停年退職		
	松本 理佐 助教	(構造物マネジメント工学講座)		

●採用		
社会基盤工学専攻		
H30.7.1	五井 良直 助教	(構造工学講座構造力学分野) ⇒日本学術振興会特定研究員より
H31.4.1	北根 安雄 准教授	(構造工学講座構造ダイナミクス分野) ⇒名古屋大学大学院工学研究科准教授より
	木戸 隆之祐 助教	(地盤力学講座地盤力学分野) ⇒博士課程より
都市社会工学専攻		
H31.4.1	中尾 聡史 助教	(交通マネジメント工学講座交通情報工学分野) ⇒京都大学レジリエンス実践ユニット特任助教より
	宮崎 祐輔 助教	(都市基盤システム工学講座) ⇒博士課程より
防災研究所		
H30.10.1	Kamranzad, Bahareh 白眉センター特定助教	(沿岸災害研究分野)
H31.4.1	山野井 一輝 助教	(流域災害研究センター河川防災システム研究領域) ⇒理化学研究所計算科学研究センター総合防災・減災研究チーム特別研究員より
●昇任		
社会基盤工学専攻		
H30.12.1	森 信人 教授	(防災研究所気象・水象災害研究部門沿岸災害研究分野) 同分野准教授より
都市社会工学専攻		
H30.11.1	大庭 哲治 准教授	(都市社会計画学講座都市地域計画分野) 同分野助教より
H31.1.1	澤村 康生 准教授	(都市基盤システム工学講座) 社会基盤工学専攻地盤力学講座地盤力学分野助教より
防災研究所		
H30.10.1	竹之内 健介 特定准教授	(気象水文リスク情報寄附研究部門・日本気象協会) 同分野特定助教より
地球環境学堂 (都市社会工学専攻)		
H30.12.1	高井 淳史 准教授	(地球親和技術学廊社会基盤親和技術論分野) 同分野助教より
●配置換え		
社会基盤工学専攻		
R1.5.1	高橋 良和 教授	(構造工学講座構造ダイナミクス分野) ⇒同講座構造材料学分野より
	八木 知己 教授	(構造工学講座橋梁工学分野) ⇒同講座構造ダイナミクス分野より
	北根 安雄 准教授	(構造工学講座構造力学分野) ⇒同講座構造ダイナミクス分野より
	安 琳 准教授	(構造工学講座構造ダイナミクス分野) ⇒同講座橋梁工学分野より
	野口 恭平 助教	(構造工学講座橋梁工学分野) ⇒同講座構造ダイナミクス分野より
都市社会工学専攻		
H30.6.1	野原 大督 助教	(都市国土管理工学講座・水文循環工学分野から) ⇒都市国土管理工学講座・自然・社会環境防災計画学分野へ

本年は22名となりました。鉄道・空港が減らした理由は不明ですが、建設が伸びたのは、就職担当教員の働きかけと景気の動向を反映した結果となっていると思います。就職は、旧来の学校推薦から自由応募へ移りつつあります。学生が個別にSNSで卒業生に問いかける機会も増えているかと思ひます。京土会の皆様におかれましては、多様な対応

をお願いすることになると思ひますが、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国際コースの状況をご報告申し上げます。本年度の国際コース長は、宇野伸宏教授が担当されています。国際コースは、平成23年度に一期生を受け入れて以来、8年が経過し、これまでの累計は、留学生81名、日本人72名の計153

表3 土木系学生の就職状況 (H31年4月)

就職先	学部	修士	博士	合計
内閣・各府省	1	8		9
独立行政法人・団体		2		2
学校			1	1
地方庁		2		2
道路		2		2
電気・ガス・水道		7		7
鉄道・航空		13		13
建設	4	18		22
鉄鋼・鉄構・機械・プラント・石油・造船		12		12
コンサルタント・設計	2	22		24
商社・銀行		3		3
情報通信・電機・電子・システム	3	16		19
不動産		2	1	3
サービス業・その他		7		7
合計	10	115	2	127

名の学生を受け入れてきました。今年度も初めてのインドからの女子学生1名を含む10名の留学生を迎え入れております。国際コースの正規授業科目である国際インターンシップでは、日本人学生は海外の現場へ、留学生は国内の現場へ派遣をしております。ここ数年、世界展開力強化事業「気

象変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材教育プログラム」の協力を得て、日本人学生の海外派遣を実施しております。この国際インターンシップのみならず、学部学生の学外実習の受け入れに関しては、京土会の皆様にご支援を頂いており、多くの国内外の現場への派遣が実現しております。厚く御礼申し上げます。この国際インターンシップの様子は、毎年「京都大学工学部地球工学科国際コース奨学基金およびインターンシップにご支援いただいている皆さんと教員・学生の交流会」でご報告申し上げており、昨年の11月にも交流会を開催いたしました。多くの京土会の皆様にご参加いただき、感謝いたしております。学生さんにとっては、先輩諸氏と交流できる素晴らしい機会となっております(写真1参照)。

世界展開力強化事業「気象変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材教育プログラム」は、修士課程の双方向型教育プログラムを中心に実施されてきています。これは、土木コースが目標とする世界で活躍できる技術者・研究者の育成の一翼を担うものです。これらの活動をさらに発展させるべく、土木工学コースが中心となり卓越大学院プログラムの申請を行いました。これらの取組は、大学だけで完結するものではありません。京土会・卒業生の支援なしに実現は不可能です。どうか引き続き、土木工学教室の活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。



写真1 第8回京都大学工学部地球工学科国際コース奨学基金およびインターンシップにご支援をいただいている皆様と教員・学生の交流会(平成30年11月19日)

(b) 都市環境工学専攻の近況報告

都市環境工学専攻長 伊藤 禎彦

本日はご多忙のところ京土会総会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私は本年度、都市環境工学専攻の専攻長を仰せつかっております昭和59年卒業の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。



都市環境工学専攻関連の近況について簡単にご報告させていただきます。恒例によりまして、人事異動について報告申し上げます。まず定年退職からでございますが、平成31年3月31日付けで、エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻の東野 達教授が定年退職を迎えられました。東野先生の当専攻への長年のご貢献に大変感謝する次第でございます。その他、退職・転出では、都市衛生工学

分野 小坂 浩司准教授が国立保健医療科学院上席主任研究官へ、水環境工学分野 水野 忠雄講師が摂南大学理工学部へ准教授として赴任されています。採用では、4月1日付けにて、国立保健医療科学院より越後 信哉先生が都市衛生工学分野准教授に、大城 賢先生がみずほ情報総研株式会社より大気・熱環境工学分野助教に着任されています。また、昇任としては、1月1日付けにて、中田 典秀先生が物質環境工学講座環境質予見分野助教から講師になっていただいています。

これらの人事異動によりまして、現在の都市環境工学専攻関連の教員一覧はご覧のようになっております。表に示しましたように、14の研究室で構成しており、桂キャンパスにございます6研究室、青色の部分は天津市、琵琶湖のほとりにあります流域圏総合環境質研究センターの2研究室、吉田キャンパス内でこの建物の西側にあります環境科学センターの2研究室、さらに、大阪府熊取町にあります2研究室で構成しております。さらに、この吉田キャンパス内にございます地球環境学堂に所属しております環境調和型産業論分野およびエネルギー科学研究科のエネルギー環境学分野を合わせ、14研究室、37名の教員で活動しております。なお現在、高野教授が担任されている環境衛生学講座が地球環境学堂の流動分野として活動しております。

当専攻の近況のひとつとして、衛生工学科創立60周年記念事業を行いましたので報告させていただきます。衛生工学科は昭和33年に創設されましたが、平成30年に60周年を迎えました。「衛生工学科創立60周年記念誌」を刊行したほか、京都大学環境衛生工学研究会第40回シンポジウムにおいて、「未来に向けた環境工学の挑戦」と題する記念セッ

都市環境工学専攻関連教員一覧 (37名)

大学院	専攻	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教	
工学研究科	都市環境工学	環境デザイン工学 (桂)		高岡 昌輝	大下 和徹		藤森 崇 日下部武敏	
		環境衛生学 (桂)*		高野 裕久	上田 佳代		本田 晶子	
		環境システム工学 (桂)	水環境工学		西村 文武	日高 平		
			環境リスク工学	米田 稔	島田 洋子			五味 良太
			大気・熱環境工学		藤森真一郎			大城 賢
			都市衛生工学	伊藤 禎彦	越後 信哉			中西 智宏
		物質環境工学	環境質管理 (流環)	清水 芳久	松田 知成			
			環境質予見 (流環)	田中 宏明		中田 典秀		井原 賢
			環境保全工学 (環科)	酒井 伸一	平井 康宏			矢野 順也
			安全衛生工学 (環科)	橋本 訓	松井 康人			
			放射能環境動態 (原実)		藤川 陽子			窪田 卓見
			放射性廃棄物管理 (原実)		福谷 哲			池上麻衣子 芝原 雄司
地球環境学大学院	地球親和技術学廊		環境調和型産業論 (吉田)	藤井 滋穂	田中 周平		原田 英典	
エネルギー科学研究科	エネルギー社会・環境科学	エネルギー社会環境学	エネルギー環境学		亀田 貴之		山本 浩平	

*: 地球環境学堂との兼任

ションを開催しました。加えてソフトボール、バレーボール、将棋、麻雀、キャップ投げ、ボーリング、フットサル、ゲームを種目とする記念親睦行事も実施するとともに、記念祝賀会を開催しました。

都市環境工学専攻近況

衛生工学科創立60周年記念事業 実施

- 「衛生工学科創立60周年記念誌」刊行
- 「衛生工学科創立60周年記念セッション」開催

**京都大学環境衛生工学研究会第40回シンポジウム
「未来に向けた環境工学の挑戦」**

2018年7月27日、京都大学時計台記念館

- 記念親睦行事
ソフトボール、バレーボール、将棋、麻雀、
キャップ投げ、ボーリング、フットサル、ゲーム
- 記念祝賀会



次に、アジアを中心とした国際的活動について報告させていただきます。これまでに、中国・深圳拠点オフィスを清華大学深圳キャンパスに、マレーシア拠点オフィスをマラヤ大学に、ベトナム・ハノイ拠点オフィスをハノイ理工科大学に、タイ・バンコク拠点オフィスをマヒドン大学にそれぞれ設置してまいりました。これらの拠点は各種フォローアップ経費や総長裁量経費、全学経費、民間企業からの寄付金などによって維持し、活発に活動を続けておりますが、このたび深圳拠点オフィスとタイ・バンコク拠点オフィスが、京都大学からオンサイトラボラトリーとして認定されるに至りました。京都大学からも直接支援を受けることができるようになったということであり、力強く思っているところです。

最後に就職状況についてご報告申し上げます。この表に示しますとおり、昨年度就職した卒業、修了生は37名でした。一覧を示しておりますが、大きな特徴は公務員になった人がいなかったということで、これは前代未聞とっていいくらいではないかと思えます。また、来春卒・修了予定の学生についても、公務員になりたいという人がとりあえず誰もいない、という状況でございます。昨今の状況を反映しているものと思えますが、対応策も考えているところで、さらに、最近の就職活動・採用活動を反映して、同一企業に何名も就職するケースが目立つことも特徴のように思えます。

来春卒業・修了予定者の就職につきましても、現在、選考を進めていただいているところでありますが、引き続きよろしくお願いいたします。

平成30年度卒業・修了生の進路

就職した卒業・修了生： 37名

公務員：
なし

民間：
NTTデータグローバルソリューションズ、PwCあらた有限責任監査法人、SMBC日興証券、UTコンストラクション、王子製紙、大阪ガス、川崎重工業、栗田エンジニアリング、クリハラント、サービス&セキュリティ、新日鉄住金、ダイキン(2)、三井、中央復建コンサルタンツ、千代田化工建設、日水コン、日本工営、日本総研(2)、パシフィックコンサルタンツ(2)、パナソニック、パナソニックエコシステムズ、日立造船(2)、ベイカレントコンサルティング、三菱重工環境・化学エンジニアリング、三菱重工業、村田製作所、メタウォーター(3)、三菱総合研究所、日立製作所(2)、富士通

以上、都市環境工学専攻の近況を簡単にご報告させていただきました。引き続き、ご鞭撻ならびにご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

(2) 人事異動 (平成30年10月～令和元年10月)

(職名は異動後の職名, 但し () 内は異動前の職名)

【社会基盤工学専攻】

H30.12.1	UDMALE Parmeshwar Digamber	特定研究員	新規採用
H31.1.1	松隈 俊佑	特定研究員	新規採用
H31.2.28	〃	(特定研究員)	退職
H31.3.31	松村 政秀	(准教授)	退職 (熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授へ)
H31.3.31	伊豫部 勉	(特定准教授)	退職 (東日本旅客鉄道株式会社へ)
H31.3.31	西田 孝弘	(特定准教授)	退職 (国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所へ)
H31.3.31	HANITTINAM PATINYA	(特定研究員)	退職
H31.4.1	北根 安雄	准教授	新規採用
H31.4.1	木戸隆之祐	助教	新規採用
R1.5.1	高橋 良和	教授	構造工学講座構造材料学分野より構造工学講座構造ダイナミクス分野へ配置換
R1.5.1	八木 知己	教授	構造工学講座構造ダイナミクス分野より構造工学講座橋梁工学分野へ配置換
R1.5.1	北根 安雄	准教授	構造工学講座構造ダイナミクス分野より構造工学講座構造力学分野へ配置換
R1.5.1	安 琳	准教授	構造工学講座橋梁工学分野より構造工学講座構造ダイナミクス分野へ配置換
R1.5.1	野口 恭平	助教	構造工学講座構造ダイナミクス分野より構造工学講座橋梁工学分野へ配置換
R1.10.1	清水 裕真	助教	新規採用

【都市社会工学専攻】

H30.11.1	大庭 哲治	准教授	都市社会計画学講座都市地域計画分野助教より昇任
H31.1.1	澤村 康生	准教授	社会基盤工学専攻地盤力学講座地盤力学分野助教より都市社会工学専攻都市基盤システム工学講座准教授へ昇任
H31.3.31	小林 潔司	(教授)	定年退職
H31.3.31	松本 理佐	(助教)	退職
H31.4.1	中尾 聡史	助教	新規採用

H31.4.1	宮崎 祐輔	助教	新規採用
H31.4.1	麻植 久史	特定准教授	社会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座特定准教授より都市社会工学専攻地球資源学講座地殻環境工学分野へ
R1.9.30	Flores Barron, Giancarlo Augusto	(准教授)	退職 (UTEC大学土木工学研究科教授へ)

【都市環境工学専攻】

H31.1.1	中田 典秀	講師	附属流域圏総合環境質研究センター専攻物質環境工学講座環境質予見分野助教より昇任
H31.3.31	水野 忠雄	(講師)	退職 (摂南大学理工学部准教授へ)
H31.3.31	小坂 浩司	(准教授)	退職 (国立保健医療科学院主任研究官へ)
H31.3.31	郭 敏娜	(特定研究員)	退職
H31.4.1	越後 信哉	准教授	新規採用
H31.4.1	大城 賢	助教	新規採用
H31.4.1	Oleszek Sylwia Izabela	特定研究員	新規採用
H31.4.30	林 東範	(特定研究員)	退職 (龍仁市政研究院へ)
R1.6.1	加藤 伸之	特定研究員	新規採用
R1.10.1	ZHAO, Bo	特定研究員	新規採用

【地球環境学専攻】

H30.12.1	高井 敦史	准教授	地球親和技術学廊講座社会基盤親和技術論分野助教より昇任
----------	-------	-----	-----------------------------

【エネルギー社会・環境科学専攻】

H31.3.31	東野 達	(教授)	定年退職
----------	------	------	------

【地球系事務室】

H31.3.31	藤森 隆志	(専門員)	定年退職
H31.4.1	馬場 貴司	掛長	北部構内専門員 (国際室長, 兼国際企画支援掛長) より教務課専門員 (兼Cクラスター事務区教務掛長) へ配置換
H31.4.1	上木 正博	専門職員	教務課専門職員 (教務掛 (地球工学科)) より教育推進・学生支援部国際教育交流課専門職員 (海外留学掛) へ配置換
H31.4.1	畑迫己代子	主任	教務課主任 (教務掛 (物理工学科)) より教務課主任 (教務掛 (地球工学科)) へ配置換
H31.4.1	辻 英祐	掛長	経理事務センター掛長 (Cクラスター事務区会計掛長) より経理課掛長 (運営費・寄附金掛) へ配置換

[3] 母校だより

H31.4.1	久村 静香	主 任	経理事務センター主任 (Cクラスター事務区会計掛) より学術協力課主任 (外部資金経理掛) へ配置換
H31.4.1	西坂 加奈	主 任	経理事務センター主任 (Cクラスター事務区会計掛) より経理課主任 (運営費・寄附金掛) へ配置換
H31.4.1	古森 千尋	事務職員	経理事務センター (Cクラスター事務区会計掛) より経理課 (運営費・寄附金掛) へ配置換
H31.4.1	岡林 優	事務職員	経理事務センター (Cクラスター事務区会計掛) より経理課 (運営費・寄附金掛) へ配置換
H31.4.1	寺尾 明紀	事務職員	経理事務センター (Cクラスター事務区会計掛) より学術協力課 (産学交流掛) へ配置換
H31.4.1	松重 葉子	事務職員	経理事務センター (Cクラスター事務区会計掛) より管理課 (財務企画掛) へ配置換
H31.4.1	井上 良平	主 任	総務課主任 (Cクラスター事務区庶務掛) より総務課主任 (Aクラスター事務区庶務掛) へ配置換
H31.4.1	三浦 祐子	主 任	総務課 (Cクラスター事務区庶務掛) より総務課主任 (Cクラスター事務区庶務掛) へ配置換
H31.4.1	米田 寿宏	主 任	総務課主任 (図書掛 (建築学科)) より総務課主任 (図書掛 (地球工学科)) へ配置換
H31.4.1	安原 通代	主 任	総務課主任 (図書掛 (地球系)) より総務課主任 (図書掛 (物理系)) へ配置換
H31.4.1	真鍋 幸之	主 任	総務課主任 (図書掛 (地球工学科)) より 北部構内教務・図書課主任 (数理解析研究所図書掛) へ配置換
H31.4.1	石田 英未	事務職員	新規採用 (総務課 (図書掛 (地球系)))
R1.10.1	大森美有紀	主 任	総務課主任 (Cクラスター事務区庶務掛) より 北部構内総務課主任 (人事掛) へ配置換
R1.10.1	管野 貴仁	主 任	人文科学研究所主任 (総務掛) より総務課主任 (Cクラスター事務区庶務掛) へ配置換

(3) 学位授与 (平成31年3月25日～令和元年9月24日)

(課程博士)

岩本 一将	H31.3.25	明治・大正期の地方都市における電気軌道事業と都市形成に関する研究	松本 和宏	R1.7.23	流出解析分野における数値最適化に関する研究
榎 一平	H31.3.25	斜張橋ケーブルの空力振動現象と制振対策に関する研究	徐 国暢	R1.7.23	次世代自動車を含む使用済み自動車からの希土類元素と貴金属の物質フロー分析 (英文)
Md Shibly Sadik	H31.3.25	バングラデシュ国で発生したサイクロン・アイラ後の社会復興に関する特性、診断解析および評価に関する研究 (英文)	林 巖	R1.9.24	GFRP部材の構造特性評価及びGFRP橋梁の合理化設計への適用
Shampa	H31.3.25	透過型河岸防護施設を伴う網状河川の水成地形に関する研究 (英文)	KARKI Saroj	R1.9.24	水制工を有する蛇行水路の水成地形特性に関する研究 (英文)
高須賀丈広	H31.3.25	突起付きT形鋼ジベル合成床版の保有性能の解明に関する研究	Wendi Harjupa	R1.9.24	ひまわり8号とXRAINを用いたゲリラ豪雨の生成に関する研究 (英文)
木戸隆之祐	H31.3.25	不飽和土の微視的特性とそれらの巨視的応答へのリンク (英文)	清水 裕真	R1.9.24	非圧縮性流体解析のための高解像度界面の導入による粒子法の高度化(英文)
宮崎 祐輔	H31.3.25	ヒンジ式プレキャストアーチカルバート縦断方向の地震時挙動に関する基礎的研究 (英文)	SUAREZ PABA MARIA CAMILA	R1.9.24	Natech リスクマネジメントのパラダイムシフト：石油化学コンビナートの防災性能評価と地域のレジリエンスの向上のためのフレームワークの開発 (英文)
石 咏雪	H31.3.25	危機対応を目的とした洪水災害関連ツイトの分析と分類 (英文)	WAI THWE AUNG	R1.9.24	開水路非定常流の基礎理論の発展に関する研究 (英文)
恩田 千早	H31.3.25	発電用ダムにおける堆砂特性を考慮した通砂運用に関する研究	井上 和真	R1.9.24	2方向入力地震動に基づく構造物の耐震性能評価に関する研究
方 堃	H31.3.25	アーチ作用を受けた法尻掘削破壊進行とその誘因に関する表面速度に着目した物理模型実験 (英文)	金 雨澤	R1.9.24	社会的ネットワークを考慮した過疎地域振興のための起業家行動に関する研究 (英文)
張 岑	H31.3.25	新しい共有モビリティサービスの需要進化のモデリング (英文)	DOAN VAN BINH	R1.9.24	上流ダム開発がベトナム・メコンデルタにおける流量・土砂および河床変動に及ぼす影響 (英文)
高橋 真司	H31.3.25	河川生態的機能を高めるための河床地形管理に関する研究	緒方 奨	R1.9.24	岩盤の透水性変化を予測する熱・水・応力・化学連成モデルの開発 (英文)
波多野圭亮	H31.3.25	河床攪乱指標を用いたダム下流の流況・土砂動態評価手法の開発	松田 健士	R1.9.24	厨芥類を中心とした家庭系廃棄物の発生抑制・再資源化のライフサイクル分析および評価指標に関する研究
村上 武士	H31.3.25	途上国水道事業におけるコンセッション方式の入札・契約に関する研究	VERA PHUNG LING HUI	R1.9.24	大気中粒子の健康影響に関する疫学研究における新しい視点：曝露におけるタイムラグ、期間および強度 (英文)
李 彧	H31.3.25	環境影響の少ない都市計画の新たな総合的評価モデルの開発：中国天津市を例として (英文)	Wutyi Naing	R1.9.24	ミャンマー・マンダレーにおけるデータ制約下でのマテリアルフロー解析を用いた人由来廃棄物の管理 (英文)
吉村 健	H31.3.25	水力発電ダムにおける連携通砂の総合評価に関する研究	MOHD REDZUAN BIN RAMLI	R1.9.24	マレーシア、クラン渓谷における水環境、食品、人体中ペルフルオロアルキル酸 (PFAAs) の評価 (英文)
Marina Hamidzada	H31.3.25	現地の声に基づいた女性の災害脆弱性の概念の分解と再構築 アフガニスタンの地方部と都市部のケーススタディ (英文)	趙 博	R1.9.24	下水道と放流先河川におけるニトロソアミン類とその生成能の存在実態 (英文)
張 文君	H31.3.25	不完備契約論からみた建設契約のガバナンスに関する研究 (英文)	(論文博士) Pham Hong Nga	R1.9.24	中央ベトナムの農村洪水氾濫域における無形脆弱性に着目した洪水リスクアセスメント
倉橋 実	H31.3.25	ダム貯水池群を対象とする効率的なアセットマネジメント手法に関する検討	河瀬 玲奈	R1.9.24	サービス需要を考慮した世界の鉄鋼ストック・フローの長期的推計に関する研究
蒲池 一将	H31.3.25	メタノール廃水のメタン発酵処理技術に関する研究開発			
Raju Poudel	R1.5.23	災害廃棄物の特性化と管理：ネパール地震 (Gorkha地震) を例として (英文)			
Hendra Adhi Pratama	R1.5.23	日本とインドネシアの土壌におけるCs吸着特性の比較 (英文)			

(4) 学生の進学・就職状況

平成30年度の大学院および学部学生の進学就職状況は次の通りである。(R1.10.1)

(尚、総会時、各学科専攻長報告の数より若干変更有)

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
博士課程			社基 都社 都環	5 2 2		
修士課程					地球	125
研究生・その他 (他大学)	社基 都社 都環 情報	4 3 2 1	都環	1	地球	3
学校関係	社基	1				
環境省	都環	1				
総務省			社基	1		
経済産業省			社基	1		
防衛省			社基	1		
国土交通省			社基 都社	1 4	地球	1
独立行政法人	都社 情報	1 1	社基 都社	1 1		
都道府県			都社	1	地球	1
市町村			都社	1		
道路			社基 都社	1 1		
電力・ガス	都社	1	社基 都社 都環	3 5 1		
鉄道・航空			社基 都社 学舎 情報	7 4 1 1		
建設会社	都社	1	社基 都社 都環 学舎	14 5 7 1	地球	2
鉄鋼・鉄構・機械・ 電機・電子	社基	1	社基 都社 都環 学舎 エネ科	9 4 13 1 1	地球	2
コンサルタント	社基 学舎	1 1	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	10 11 5 4 1 1	地球	3
銀行・商社・ 証券・保険			社基 都社	3 3		
不動産	社基	1	社基	3		

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
環境産業	都環	1	学舎 エネ科	1 1		
シンクタンク			都環	1		
情報通信	都社	1	社基 都社 都環 情報	2 3 2 1	地球	4
サービス業・ その他	社基 都社 都環 学舎	9 2 3 1	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	12 7 9 1 3 1	地球	13
合計	社基 都社 都環 学舎 情報	17 9 7 2 2	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	74 52 41 9 6 4	地球	154
		37		186		154

(5) 国際コースと留学生

工学研究科では、博士後期課程への留学希望者の増加に応じて多くの留学生を受け入れてきたが、教育指導は基本的に日本語を用いて行われているため、優秀な学生でも言語の障壁のため本研究科への応募を躊躇することが数多くあった。このような問題に対応するため、平成13年度から平成24年度まで英語のみを使用する博士後期課程総合工学特別コースが実施された。さらに、社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻では修士課程を対象とする国際コースを平成23年4月から、工学部地球工学科では学部生を対象とする国際コースを平成23年4月から開設している。